

蕉
道
句
百
人
一
集

百
首

0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
1
2





序

思燒釜を破りて己れを罪深き業と悟
 り、権の存り心も似しく能く思ひと
 志をいんや命。あまた五宗一具の
 を流り、大なるを柳の河に流るる
 ぬく花を對し、海の道を教へても
 水より集るる雨の心。や、我を晨
 に道釋道の大錯をもたれと生佛に二
 の妙界の意を命と希ひつゝか
 今まゝにわに本集を編して直にた
 道とたゞの便にせんが故に一編再
 今流るるれ、或は世道人心を益
 せしむるも生かすも我も
 敢てこれと序とを

大正二年秋

寺外清の河

柳下湖磨

道々々々々

和歌

あまのこころの響き
程々の姿と清命なるなり

湖磨

俳句

俳集

佛の道々

多岐路なり

湖磨

蕉禅道句百人一集

水音音音音

古池也

中々々々

音音音音

涅槃像

東京

準一

あき

あき

元々

京都

聴秋

あき

古袴

あき

尾張

羽海

あき

あき

あき

上野

十湖

あき

牡丹

送
因幡
機外

酒

大
成

田
植
研哉

東京

耳
根

谷
机
丸

鏡
伊豫
得心

天
情

甘
情
来

琴
奏
然
度

信濃

晴
女

水
心

古池や

仙臺

愚佛

音

女娃の

音高

足跡

東系

宇貫

尺

尺

人の道

遠江

隨處

一歩

古方

早

伊豫

南亭

早

向

先づ扱

東京

小次

徳の海

南田

後三女

札幌

一葉

豊後屋

徳屋

從繁令

上野

瑞峰

破顔微笑

一々

幸抱

近江

露城

大

松福

三

東京 為谷

心

心

伊豫 梅整

也

度

遠江 木潤

指

不

武蔵 應雅

新

阿

明月東京其風

昨日如春

語之如海

朝之如丹波琴心

浮舟如海

流之如海

眼越後英嶽

物之如海

流之如海

雪之如海下総老川

乳之如海

心之如海

まゝ風也

東京

菊外

野崎の文

字

瓢

和合と流

越後

湖村

家。文の

字の文

そと也

周防

幸守

まゝの文

本妙寺

杉の算

品川

樗風

まゝの文

照

去来 信濃 桐里

水秀 おん

晴 の 南

角 東京 一

心 おん

心 おん

母 伊勢 辻樂

心 おん

心 おん

心 下総 霞門

心 おん

心 おん

法岸流東京 界葉

佛の慈悲

信之

為子越後 耕碩

尺

中

六浦相模 相行

一

一

法棟尾張 卯月

長

一

月夜

東京

風好

墨時

四方輝

喜

出雲

富水

山

残夜

秋

松濱

雨象

牧

山

花

東京

柳涯

山

事

美舟 遠江 可人

美舟の可人

美舟の可人

乃人 東京 三祥

乃人の三祥

乃人の三祥

乃人 武蔵 海心

乃人の海心

乃人の海心

我罪 信濃 戀海

我罪の戀海

我罪の戀海

吉慶心子

東京

尚左

あきつゆ

あきつゆ

清

武蔵

江南

別あきつゆ

あきつゆ

あきつゆ

播磨

澄秋

授戒清

あきつゆ

朝子

東京

悟友

あきつゆ

あきつゆ

父母は

安齋

不及

甘んじ忍ぶ

鬼より

善き事

越中

袋溪

善き事

人

深

東条

うてか

先づ

氷

寒

越後

丈芭

心

始

待一印

大政

常春

我思

似

朝影

越後

湖心

秋

海

送竹

上総

修齋

秋

秋

送本

伊勢

日外

秋

秋

尺
東京
乙卯年

河

廿一

白
湖東

山

山

眼
加賀
葦文

山

山

山
濱
坐石

我腸

振

冬花
阿波

冬花

冬花

冬花
上野
半部

冬花

冬花

冬花
豊後
寒泉

冬花

冬花

冬花
東京
千畝

冬花

冬花

大

柳

出雲

柳絲

身は是は怪

二日春

見

高京

桃年

あはれ

あはれ

親二人

越中

高重

あはれ

難煮

何事も

越後

北山人

丸

中

青のせし

東京

家雄

けしやき

地

色之ぬ

久留米

注猿

杉と操

鏡

おの梅

讃岐

芭臣

志樹

大

元りや

肥前

梅石

性

人

中丸の 京都 杉林

非 た ぬ ぬ ぬ

ふ た ぬ ぬ ぬ

秋 賀 帆 月

子 た ぬ ぬ ぬ

た た ぬ ぬ ぬ

分 別 武 龍 湖 春

眼 た ぬ ぬ ぬ

た た ぬ ぬ ぬ

人 淡 路 李 園

中 辭 た ぬ ぬ ぬ

花 た ぬ ぬ ぬ

教

久留米

其道

志

光

宋

陸奥

北華

子

生

物

駿河

群雄

古

柳

系

三河

石芝

養

祭人

あきしんが

東京

松千齋

口舟り

乙々

春の

下総

耕雨

あきしんが

あきしんが

己

武蔵

あきしんが

あきしんが

あきしんが

念佛

遠江

竹崎

申

綱代守

花の道

東京

公雄

花の道

花の道

知りて不勤也

伯孝

月友

花の道

花の道

花の道

振律

公年

花の道

花の道

花の道

尾張

標鶴

花の道

花の道

洞持の

名古屋

湖堂

六條を常此

要う那

天人を

加賀

岸祥

女房の持つて

昔の味うれ

義下の

東条

雨降

嘆きありあり

根穀垣

親ありと

長門

鬼豊

巧み相模

足持の多利

秋分也

晏公

志外

山崎公

山崎公

親

越後

天江

山崎公

山崎公

秋分也

京都

培屋

竹

相國寺

友

大坂

月人

山崎公

水

新編也

東京

花家

秋の心

片

鳥

夏水也

大改

春智

心水鬼

誰の心

夏水也

東京

湖佛

堪

心

44583
蘇
蘇
石

東京市本所区本所三丁目
東京市本所区本所三丁目
東京市本所区本所三丁目

五割金六割銀

大正十一年十一月廿五日發行
蕉禪通句百人一集終

大正二年十一月二十日印刷
大正二年十一月廿五日發行

(正價金六拾錢)

編者 柳 下 湖 磨

發行者 柳 下 加 板

東京市本所區押上町百六十四番地
印刷所 黒田 仙三 郎

東京市本所區押上町百六十四番地
發行所 蕉 吟 社

44285

不許複製

東京市本所區押上町百六十四番地

蕉 吟 社
柳 下 湖 磨
大正二年十一月二十日印刷

117
117

